

アンケート結果の概要

1 町民アンケート調査結果

1 調査概要

1). 調査方法

a. 全世帯郵送

郵便局のタウンプラスにて、3843世帯に郵送。

b. Webからの回答

広報やまきたに掲載したQRコードを読み込み回答。

c. 町民文化祭でアンケートを配布し回答。

2). 調査期間

a. 全世帯郵送

令和5年12月1日～12月22日

b. Webからの回答

令和5年12月1日～12月22日

c. 町民文化祭での回答

令和5年11月9日

3). 回収数

a. 全世帯郵送

757件(回収率:19.6%)

b. Web

69件

c. 町民文化祭でヒアリング

136件

回収数合計 962件

3)-1. 配達箇所数をもとにした地域ごとの回収数と回収率

配達箇所数をもとに回収数と回収率を地域ごとに比較した場合、清水地区が30.4%と最も高く、次いで岸地区が23.3%、向原地区が21.4%の順で高かった。

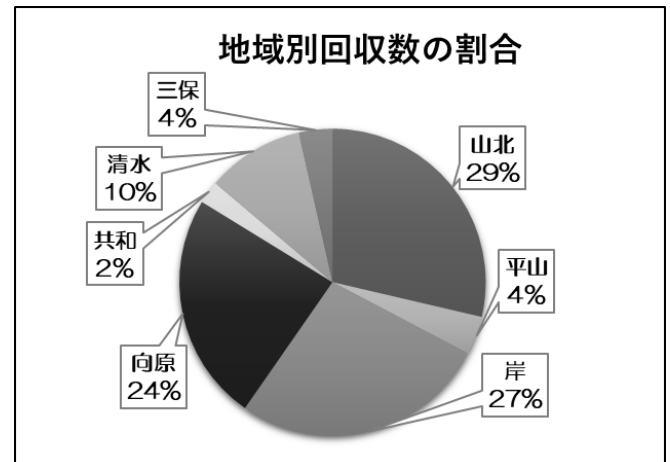
地域	配達箇所数	回収数	回収率
1. 山北	1208	185	15.3%
2. 平山	167	29	17.4%
3. 岸	914	213	23.3%
4. 向原	901	193	21.4%
5. 共和	97	20	20.6%
6. 清水	280	85	30.4%
7. 三保	276	30	10.9%
	3843	755	

無回答：2

3)-2. 回収数合計をもとにした地域別回収数の割合

回収数の合計をもとに地域別の割合を比較したところ、山北地区が275(29%)で、次いで岸地区が259(27%)、向原地区が231(24%)の順で多かった。

地域	回収数	回収率
山北	275	29%
平山	39	4%
岸	259	27%
向原	231	24%
共和	23	2%
清水	99	10%
三保	34	4%
	960	100.0%
無回答：2		

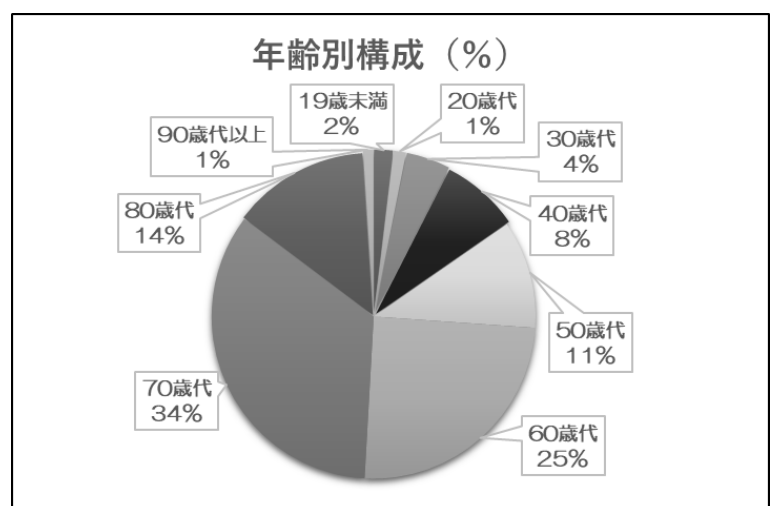


2. 定量的調査結果

1). 回答者の年齢

回答者の年齢を年代別にみると、70歳代が329人(34%)で最も多く、次いで60歳代が237人(25%)、80歳代が131人(14%)の順で多かった。60歳代、70歳代、80歳代、90歳以上の人数を合わせると、707人となり、全体の7割が年齢の高い方の回答であった。

	人数	割合
19歳未満	18	2%
20歳代	12	1%
30歳代	42	4%
40歳代	75	8%
50歳代	103	11%
60歳代	237	25%
70歳代	329	34%
80歳代	131	14%
90歳代以上	10	1%
	957	100%
非該当：3、無回答：2		



2). 回答者の年齢×地域別_クロス集計

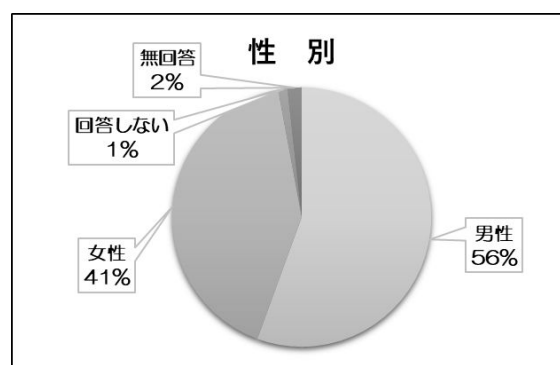
回答者の年齢を地域別にみると、岸地区の70歳代が95人と最も多く、次いで向原地区の70歳代が87人、山北地区の70歳代が81人の順で多かった。

	40歳未満	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上
1. 山北	54	30	71	81	36
2. 平山	8	3	7	14	7
3. 岸	37	34	57	95	35
4. 向原	30	21	59	87	33
5. 共和	6	1	2	9	5
6. 清水	7	9	28	34	21
7. 三保	5	5	13	7	4

3). 回答者の性別

回答者の性別の内訳をみると、男性が533人(56%)、女性が398人(42%)、回答しないが11人、無回答が17人であった。

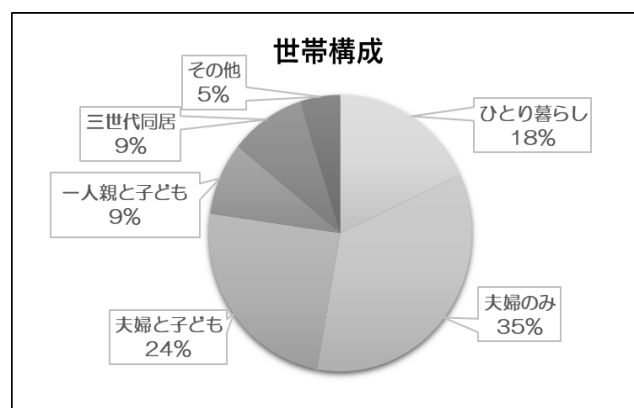
男性	533	56%
女性	398	42%
回答しない	11	1%
無回答	17	2%
	959	100%
非該当：3		



4). 回答者の世帯構成

回答者の世帯構成の内訳をみると、夫婦のみと回答した人が330人(35%)と最も多く、次いで夫婦と子どもが232人(24%)、一人暮らしが172(18%)であった。

	人数	割合
ひとり暮らし	172	18%
夫婦のみ	330	35%
夫婦と子ども	232	24%
一人親と子ども	81	9%
三世帯同居	88	9%
その他	47	5%
	950	
無回答：12		



5). 生活状況_買い物の実施者

生活状況で、買い物を誰が行っているかとの質問については、「家族と一緒にする」が569人(60%)で、「一人です」が376人(39.7%)であった。

	人数	割合
一人です	376	39.7%
家族と一緒にする	569	60.0%
友人・知人がする	3	0.3%
	948	100.0%
非該当：1、無回答：13		

6). 生活状況_買い物の交通手段

生活状況で、買い物の際の交通手段に関する質問については、「自家用車」が822人(86%)と全体の9割近くを占めており、次いで「その他」が73人(8%)、「徒歩」が52人(5%)、「バス」を使う人が最も少なく6人(1%)であった。

その他と回答した73人について、自由記述欄をみると、「徒歩と自家用車」「自転車」「生協などの宅配」が多かった。

	人数	割合
徒歩	52	5%
自家用車	822	86%
バス	6	1%
タクシー	0	0%
その他	73	8%
	953	100%
無回答：9		

7). 生活状況_就労について

生活状況で、就労については、「働いていない」が415人(44%)と最も多く、「フルタイム」が294人(31%)、「パートタイム」が137人(15%)の順が多かった。

「その他」と回答した80人について、自由記述欄をみると、「働いていないが、

農業」が多かった。

	人数	割合
1. フルタイム	294	31%
2. パートタイム	137	15%
3. 仕事を探している	15	2%
4. 働いていない	415	44%
5. その他	80	9%
	941	100%
無回答：21		

8). 家屋の状況_住んでいる住宅の種類

現在住んでいる住宅の状況については、「戸建て(持ち家)」と回答した人が843人と最も多く全体の9割を占めている。「その他」と回答した人の自由記述をみると、「戸建て(持ち家)だが、借地」「社宅」があった。

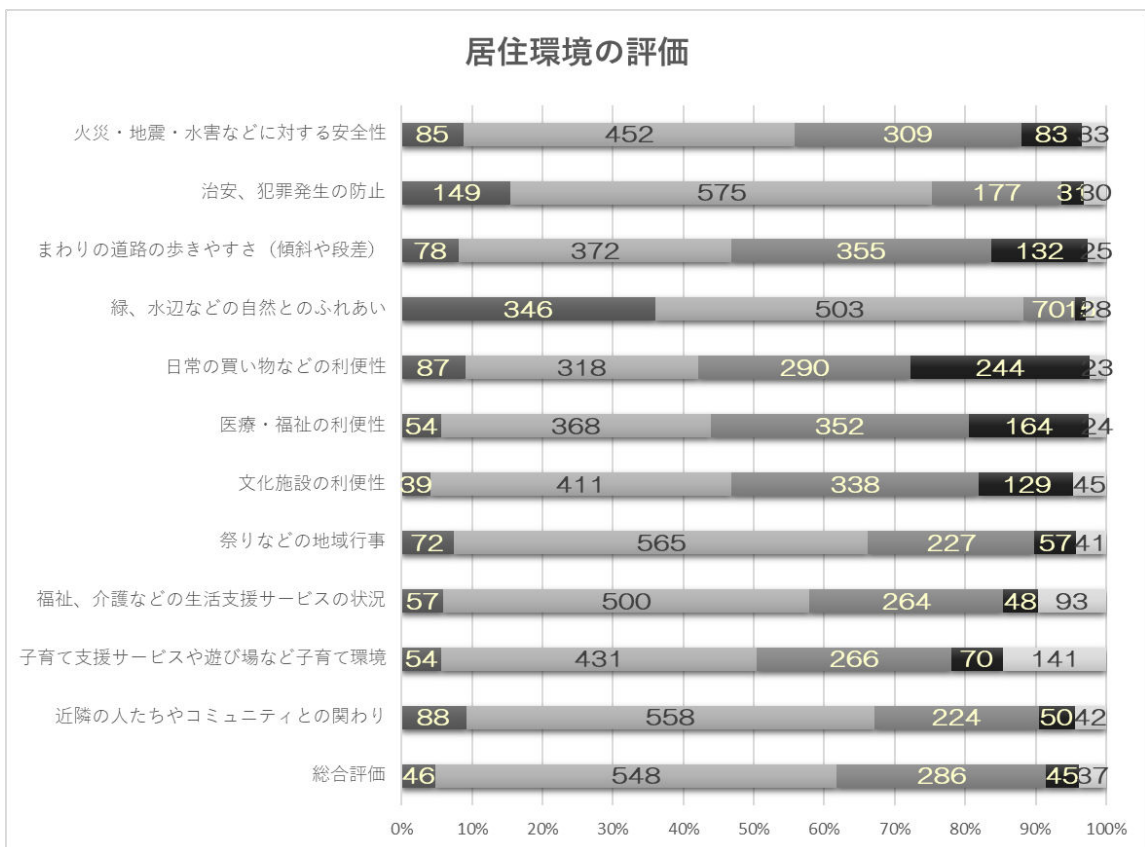
	人数	割合
戸建て(持ち家)	843	90%
戸建て(賃貸)	32	3%
集合住宅(持ち家)	15	2%
集合住宅(賃貸)	44	5%
その他	4	0%
	938	100%
無回答：23		

9). 住宅と地域について_居住環境への満足

居住環境への満足感を質問したところ、全ての項目で「まあ満足」と回答する人が多く、「総合評価」も548人が「まあ満足」と回答した。

そのなかでも、「治安、犯罪発生の防止」が575人、次いで「祭りなどの地域行事」が565人、「近隣の人たちやコミュニティとの関わり」が558人、「福祉、介護などの生活支援サービスの状況」が500人であった。

	満足	まあ満足	多少不満	不満	無回答
1. 火災・地震・水害などに対する安全性	85	452	309	83	33
2. 治安、犯罪発生防止	149	575	177	31	30
3. まわりの道路の歩きやすさ（傾斜や段差）	78	372	355	132	25
4. 緑、水辺などの自然とのふれあい	346	503	70	15	28
5. 日常の買い物などの利便性	87	318	290	244	23
6. 医療・福祉の利便性	54	368	352	164	24
7. 文化施設の利便性	39	411	338	129	45
8. 祭りなどの地域行事	72	565	227	57	41
9. 福祉、介護などの生活支援サービスの状況	57	500	264	48	93
10. 子育て支援サービスや遊び場など子育て環境	54	431	266	70	141
11. 近隣の人たちやコミュニティとの関わり	88	558	224	50	42
12. 総合評価	46	548	286	45	37

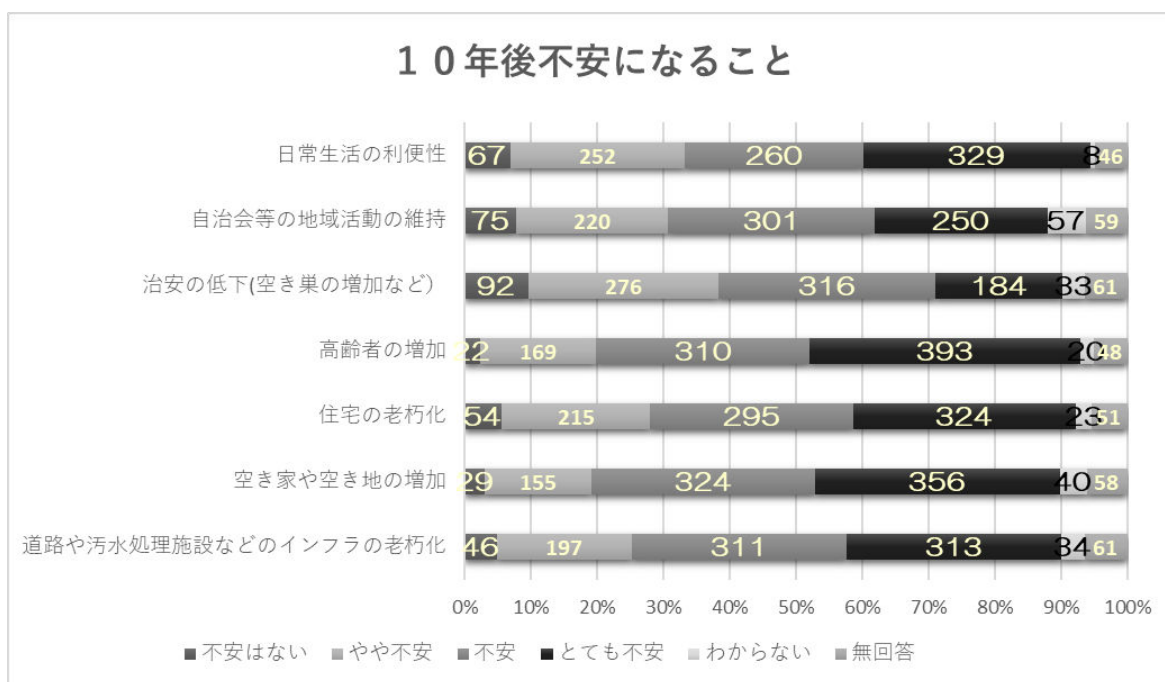


10). 空き家の活用や地域の将来_10年後不安になること

空き家の活用や地域の将来について、10年後不安と感ずることを質問したところ、「高齢者の増加」に「とても不安」と回答した人が最も多く393人で、次いで「空き家

や空き地の増加」に「とても不安」と回答した人が356人、「日常生活の利便性」に「とても不安」が329人であった

	不安はない	やや不安	不安	とても不安	わからない	無回答
1. 日常生活の利便性	67	252	260	329	8	46
2. 自治会等の地域活動の維持	75	220	301	250	57	59
3. 治安の低下(空き巣の増加など)	92	276	316	184	33	61
4. 高齢者の増加	22	169	310	393	20	48
5. 住宅の老朽化	54	215	295	324	23	51
6. 空き家や空き地の増加	29	155	324	356	40	58
7. 道路や汚水処理施設などのインフラの老朽化	46	197	311	313	34	61



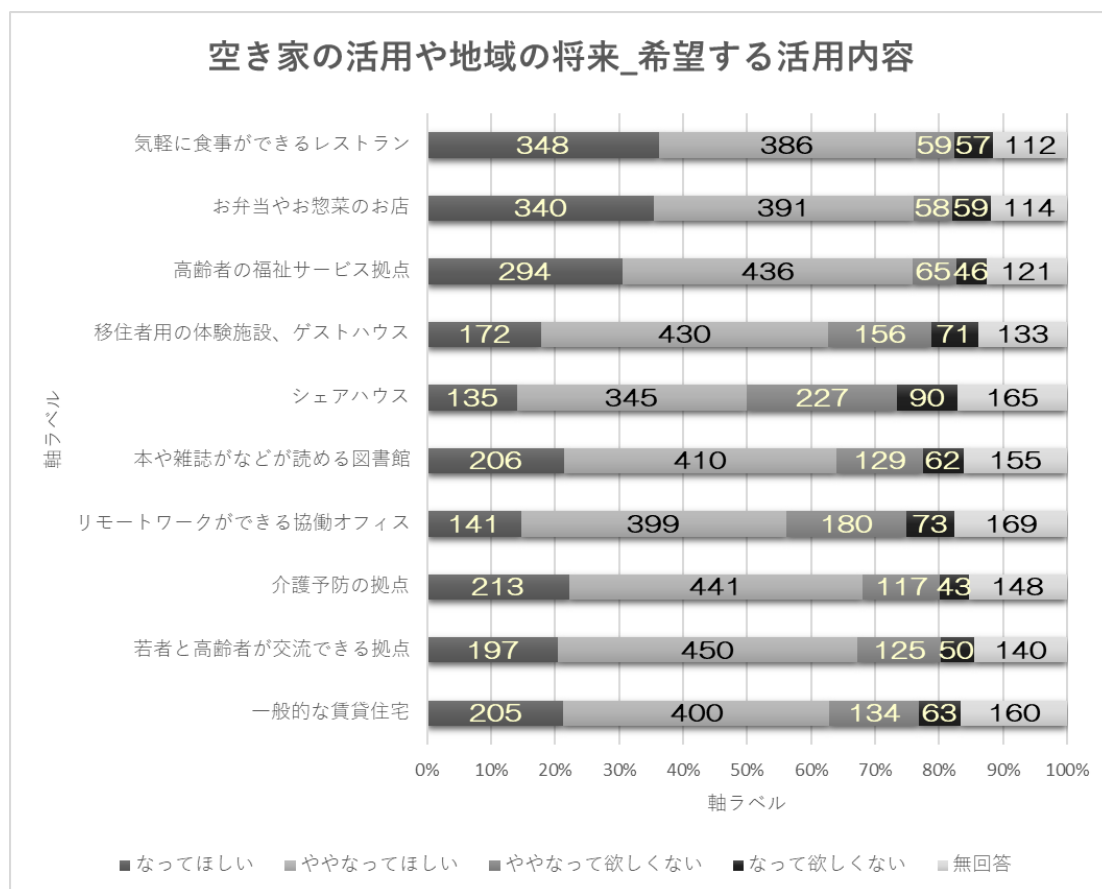
11). 空き家の活用や地域の将来_空き家の活用内容

空き家の活用に関する意見を取りまとめると、高齢者の福祉サービス拠点として活用する意見が多いことがわかる。また、お弁当やお惣菜のお店、気軽に食事ができるレストランに活用できるとよいと考えている町民が多いことがわかる。

回答者に高齢者が多いことから、生活課題を解決してくれる拠点の整備、いつま

でも元気であるためのフレイル予防の拠点など、高齢者の健康と生活のしやすさにつながる活用が望まれている傾向がある。

	なってほしい	ややなってほしい	ややなって欲しくない	なって欲しくない	無回答
気軽に食事ができるレストラン	348	386	59	57	112
お弁当やお惣菜のお店	340	391	58	59	114
高齢者の福祉サービス拠点	294	436	65	46	121
移住者用の体験施設、ゲストハウス	172	430	156	71	133
シェアハウス	135	345	227	90	165
本や雑誌などが読める図書館	206	410	129	62	155
リモートワークができる協働オフィス	141	399	180	73	169
介護予防の拠点	213	441	117	43	148
若者と高齢者が交流できる拠点	197	450	125	50	140
一般的な賃貸住宅	205	400	134	63	160



12). 結果のまとめ

1. 回答者は、60歳代、70歳代、80歳代、90歳以上の人数を合わせると、707人となり、全体の7割が年齢の高い方の回答であった。
2. 世帯構成は、夫婦のみと回答した人が330人(35%)と最も多く、次いで夫婦と子どもが232人(24%)と、本人以外の誰かと生活している人が多く、買い物も家族と一緒にしている人が6割であった。また、買い物の手段については、自家用車が86%と車中心の生活であることがわかった。
3. 現在住んでいる住宅の状況については、「戸建て(持ち家)」と回答した人が843人と最も多く全体の9割であった。
4. 居住環境の満足感については、「まあ満足」が多く、その中で「治安、犯罪発生の防止」、次いで「祭りなどの地域行事」「近隣の人たちやコミュニティとの関わり」の順で多かった。人との関わりが居住環境への満足感に影響していることが伺える。
5. 10年後不安に感じることについては、「高齢者の増加」「空き地空き家の増加」が多く、次いで「日常生活の不便」と回答する人が多かった。

3 定性的調査結果(山北町民アンケートの自由記載には384人の回答があった。以下抜粋)

- 1 交通の利便性の向上 (172 件)
- 2 買い物・商店の充実 (69 件)
- 3 生活支援の充実 (58 件)
- 4 空き家・空き地の活用 (38 件)
- 5 医療・介護の充実 (35 件)
- 6 山北駅前商店街の活性化 (19 件)

1 交通の利便性の向上 (172 件)

交通の利便性に関する記述は、172件と一番多く、町民の関心が交通の利便性あることをうかがわせる結果となった。公共交通機関の充実に関する意見もあったが、一番多い意見は、10年後に自動車を運転できなくなったときにどうするかという不安である。

現在、運航されている町内循環バスでは、行きたい時間に、行きたい所に行くことが

できないことから、改善を求める声が多くあった。

山北町民の生活の利便性を高めるためには、山北駅から大雄山駅までバスを運行してほしいとの意見や、山北駅前に公営駐車場が欲しいとの意見もあった。以前、山北駅前には、町営駐車場があったが、駅前に定住対策用住宅「サンライズやまきた」を建設する際に、入居者用専用となった経緯があり、山北駅前商店街の活性化に向けての課題といえる。

令和6年1月1日に発生した能登半島地震では、被災地までの道路が分断され、交通インフラが壊滅状態となり、陸路での人命救助や救援物資の運搬に支障が出たことを教訓として、災害に強いまちづくりを進めるためにも、交通インフラの整備については、神奈川県や国とも協議しながら、計画的に進める必要がある。

具体的には山北地区と清水三保地区とを結ぶ道路の整備が求められるところである。各地区内のオンデマンドバスについては、試験的導入が好評であるところから、順次拡大していくことが望ましいと考えるが、ライドシェアの可能性も視野に入れて実用化に向けて検討する必要がある。

アンケートの結果からは、高齢者の増加に対応した抜本的な交通インフラの整備が必要であるとの認識であり、具体的には、スーパーの買い物、クリニックの通院、役場や町の公共施設への利便性を高めるための山北町らしい交通システムの構築が求められている。

山北町にある社会資源を洗い出し、町民がいつまでも健康で元気に暮らすための拠点を整備し、必要な拠点（お店、クリニック、公園、健康増進のための施設等）を結ぶネットワーク網を構築できると良いのではないかと。

また、安心して歩ける道路に休憩できるベンチやトイレ、健康増進につながる道の整備をして、高齢者が安心して外出することのできる町づくりも重要である。今まで当たり前で自分で運転していた世代が高齢化し、買い物や通院に困る人がどんどん増えるので、従来の交通システムでは、対応できなくなることが予想される。広い山北町にふさわしい、少しでも利用しやすいきめ細かい制度を作る必要がある。

2 買い物・商店の充実（69件）

次いで多かったのは、買い物・商店の充実である。潜在的に身近なところで食料品等を購入したいニーズがあるようだ。特に山北地区の駅前商店街の充実と三保地区に商店が増えてほしいとの意見が多くあった。食料品については、移動販売車の充実を望む意見があり、車の運転ができなくなった時の生活必需品については、何らかの手を打つ必要があると。特に鮮魚店が増えてほしいとの意見が多くみられた。

食料品以外では、衣類、くつ、カバンなどの身の回り品を揃えるお店の希望があった。駅前商店街をショッピングモールとする意見もあったが、多方面からの検討が必要となるだろう。

高齢者の買い物難民をなくすため、買い物代行サービスの充実や買い物支援などの生活支援が求められているのも事実だ。

3 生活支援の充実 (58件)

生活支援のサービスは多岐にわたるが、住民ニーズで多いのは、通院・買い物支援、育児支援、家の修理、庭の草刈り、庭木の手入れ、掃除、窓ふき、電球の交換、ごみ出し、電化製品の不具合の相談・故障修理、水道設備の故障修理、困りごと相談窓口の設置である。

こうした生活支援サービスは、シルバー人材センターだけでは限界となっており、新たな担い手を発掘・育成して、生活支援事業として継続できるようにする必要がある。町の無料サービスではなく、民間の有料サービスとして位置づけ、町の事業の一環として公民連携して実施することが望ましい。

また、高齢者向けの講習会として、認知症予防やスマホ教室、フレイルチェックなど、健康増進につながり、生活環境を整える学びの場も必要である。

山北町への要望事項もあったので、多かった意見を抜粋して列記する。

<山北町への要望(抜粋)>

- ・自治体の広報や配布物、回覧物などの配布、行事の連絡等を各自治会へ依存し過ぎているので、改善してほしい。
- ・自治会組織の見直しをしてほしい。移住者は、なかなか自治会に入ってくれないので、地域活動に支障が出る。
- ・高齢者が地域活動の担い手になっているが、負荷を少しでも軽減するような配慮が欲しい。
- ・防災無線が聞こえにくいので、メールの一斉配信等、別の手段を検討してほしい。
- ・山北町で家事全般(掃除、窓ふき、買物、電灯の交換、草むしりなど)の対応してくれる業者を紹介してほしい。
- ・近隣地域に親族がいない独居老人のケアを民生委員に任せっきりにしないで、専任の担当者を置いて欲しい。また、老人が誰でも気楽に立ち寄れる堅苦しくない居場所が欲しい。
- ・日向ぼっこをしながら歓談しても良いし、そこに集う人が各々好き勝手に時を過ごす場所を作ってほしい。できれば、園児などとの交流できたらよい。
- ・困りごと何でも相談所を作ってほしい。
- ・生活していくのに一人暮らしでは、不安がたくさんあります。高齢者の見守りサービスを実施してほしい。
- ・死んでいないことの確認を毎日頼みたい。
- ・一人暮らしの高齢者の居場所を作ってほしい。

- ・健常者でも高齢世帯となっているので、定期的な安否確認のような公共システムがあったほうが良い。
- ・町の広報を配るのを自治会の当番制で回しているが、一部の家庭に地区の活動を頼る形になりつつある。このような活動を今後どうするのか、行政として道筋を早期に示してほしい。

4 空き家・空き地の活用（38件）

空き家や空き店舗、空地の有効活用については、現状の状況を踏まえ多くの意見をいただいた。町民アンケートによる意見の抜粋は次のとおり。

<空き家の活用（抜粋）>

- ・空き家を利用し、古着など自由に置き、自由にもらっていくような場所があれば無駄な不用品も利用できるかもしれない。
- ・私は今年の7月23日に小田原市で68年間営業していた寿司店を閉店、土地と建物を売却して8月23日に山北町に転居してきた。そのため、山北町のことは良く分かりませんが、山北駅の周辺は前に来た時よりも飲食店や商店が少なくなって閑散とした感じがしました。空き家の有効活用についてお手伝いを出来ればと考えています。
- ・空き家の活用として観光客の宿泊所として利用していただくと良いのではないかと。災害時は避難場所としても提供できると思う。
- ・空き家をなくして、有効に活用してほしい。住める家であれば、人に住んで欲しい。
- ・安く借りられれば、お店などやりたいと思っている。（商店街で熱帯魚店を…）
- ・空き家の購入を検討しているが、古い物件のため耐震強度が心配なので、そういった耐震についてやりフォームについて気軽に相談できる場所が欲しい。
- ・空き家を有効活用して、自治会や子供が集まれる場所をつくってほしい（ミニ公園、集会場所等）
- ・空き家空き店舗を利用してこれから店を開業したい方とかに期間限定のレンタル店舗などがあるとおもしろいかもしれません。また丹沢湖や洒水の滝で閉まっている売店なども活用するとよいかも。あれば私もやってみたい。

<町への要望（抜粋）>

- ・土地や建物の有効活用に関する学習会を開催してほしい。
- ・空き家バンクでは、望む物件が見当たらない。農村部の物件を紹介してほしい。
- ・山北町には、高齢化に伴い使っていない農地（耕作放棄地）がかなりある。こうした農地を有効活用することが必要であるので、農地の相談窓口を開設してほしい。
- ・家主が亡くなった時点で右往左往するのではなく、町が事前に相談を受けて、適切

な活用が図れるよう積極的に動くことが必要。

- ・空き家はたくさんあるのに賃貸が少ないのはなぜか。空き家バンクに登録する際の条件をゆるくすることを検討してはどうか。
- ・家の周りは農地でみかん畑があったが、高齢化等で栽培放置となり荒れ果てた土地が広がっている。町の対策を早急に望む。
- ・空き家改修のための補助金を町から出してほしい。
- ・私の周囲には、廃家屋、放き地が多く、虫、小動物の住処となっています。夏は雑草、冬は火災を心配しなくてはなりません。家は日々壊れていきます。草は伸び放題、害虫、蛇、小動物は繁殖し、一年過ぎれば何倍かになっているのが現状ではないでしょうか。役場に相談しても現在何の解決策も浮かんでできません。
- ・空き家を利用するに当たっては、食料関係が歩いて購入できる町を希望します。
- ・空き家になった場合、すべてにおいて親身になって相談する行政の窓口があると良い。
- ・大自然を生かして若者に魅力ある町を目指すべきである。
- ・使用されていない畑が多すぎるので、治安の悪化や景観の悪化を招かないように、町として相談に乗るべき。
- ・町の土地や建物、道路等、草や木がおいしげり、使用できないところが多すぎる。役場へ伝えても「順番だ」というだけで、放置されている現状がある。広報等で住民には剪定を促すが、町自体では対応を含め放置状態であると感じがする。
- ・長年放置されていて所有者の確認ができない空き家の解体を許可する制度、耕作放棄地を宅地へ転用せずに農地として活用できるサービスや支援、新規就農者への支援やサービス、空き家をリフォーム or 建替時の補助金、いろいろな施策を期待する。

<町への寄付>

- ・私には娘が二人いますが未婚で40代、妹夫婦には子どもがいません。子どもたちの老後が一番の心配です。将来建物・土地をどうするか、相続人がいないので国庫に帰属することになるかと思えますか…?よくわからない…自治体や町で利用してもらえるとよいと考えている。例えば老人や子どもの施設など、有効活用してもらえると嬉しい。

5 医療・介護 (35件)

高齢期になると医療や介護のサービスを利用する機会が増えるので、関心の高い分野となるが、今後100歳時代を健康で生きるためには、未病改善やフレイル予防が重要になる。医食同源という言葉があるように、食べて元気になるライフスタイルを実践することが求められる。

アンケートの意見を集約すると、医療と介護の充実を望む声が多くあり、一人で暮らすよりも集合住宅で暮らすことが安心と考えている高齢者が多くいることが分かった。集合住宅であれば、コールセンター機能を付けやすいし、効率的な介護が提供できるようになる。希望するサービスについては、次に掲げるとおりである。

<希望するサービス>

- ・車の運転を頼めるサービス
- ・家事援助サービス
- ・病院への送迎サービス
- ・福祉サービスが充実
- ・福祉の充実と相談窓口の設置・充実
- ・動物病院も近くにあるとよい
- ・フレイル予防
- ・サルコペニア予防

<町への要望（抜粋）>

- ・介護付き町営住宅のような施設を作ってほしい。そして、介護士さん、ヘルパーさんをいつでも気軽に呼べる体制を作ってほしい。
- ・こころ暖まる支援やサービス、人間として扱ってくれるサービスや支援、日本の伝統や文化を壊す外国人を入れてはだめ。
- ・LGBTはだめ。
- ・往診医を増やしてほしい。受診できない時、来てもらえると安心
- ・地域診療の充実 電話1本で送迎
- ・医療（出産後から小児、成人、更年期、高齢者への対応のできる施設）の充実
- ・高齢者だけの家族が、普通の生活を支障なくできるような地に足をつけた総合的なサービスが発展することを望む。
- ・山北町は広域にわたりとても広い。ましてこれから団塊の世代が高齢化になり、介護、病院、施設などが困難を極めることが考えられる。病気になっても入院できない、施設に入りたくても入れないことが想定されるので、そうなった時に受け入れられない人はどうなるのかとても不安。
- ・高齢者が安心して住める安価の住宅、特別老人ホームの新設
- ・高齢者に対する医療、介護、福祉等、より具体的なサービスの情報伝達と内容の充実を望む。

6 山北駅前活性化（19件）

山北駅前商店街の活性化については、町民アンケートだけでなく、商店街関係者への

ヒアリング、さらに県立山北高校生徒や私立鹿島山北高校のスクーリング生徒たちに駅前書店街の活性化に向けた提案を募った。

町民アンケートには、買い物支援や交通の利便性のところでも出てきたが、駅前商店街の活性化は、山北町の移住・定住促進施策を展開するうえで、町民の生活課題を解決するうえで、そして、高齢者や障がい者、子どもたちが交流するうえで大切なエリアである。

町民だけでなく、町外の有識者の胃炎を取り入れて、事業承継の手伝いや今後の生活課題の解決、空き店舗を賃貸に出す場合の契約に関する留意事項など、きめ細かい対応が求められるところである。町民アンケートによる意見は、次の通り整理できる。

<町民の声（抜粋）>

- ・商店街の刷新が出来れば買い物がしやすくなり、移住者が増えるのは間違いないと思います。
- ・駅前商店街を中心に山北町全体がもう少し栄えて、町外や観光客の方が来たくなくなるような店が増えとうれしい。
- ・山北駅前に人が集まるような施設がほしい。物販店や飲食店ができるとよい。
- ・山北駅前に野菜や魚を買える場所があると助かります。
- ・山北駅は町の玄関口です。にぎわいの創出と高齢化が進むことでの防犯対策としての防犯カメラの増設。この町をどうするか、根本的な見直しが必要では？町民が1点に向いて活動できるビジョンがない？ビジョン・目標をPRしては？
- ・山北駅前の活性化ができればよい。住みだして1年半ですが、近所4～5軒はつきあいがあるが、もう少し広い範囲の人たちにも付き合ってみたいが、なかなかチャンスがない。名前や電話等も知らない。
- ・山北駅前に人が集まるような施設がほしい。物販店や飲食店ができるとよい。
- ・今、山北町、町内はとっっても住みにくくなっています。お店、スーパーがなく、駅前に住んでいるのに買物をするところがない。役場公共の場が駅の近くにあるけど本当に買物をする所がないのはおかしい。山北に住みたいと思うようにするには、駅前をもっとどうにかした方がよい。山北は山もあり自然に恵まれていると思う。それをもっと考えてほしい。
- ・駅前商店街をレトロな街並みにしてほしい。
- ・山北駅前商店街の街並みはレトロな物を感じます。この街並みに魅力を感じる人も多いのではと思います。商店街を整備して、貸店舗、登山客の宿泊施設、大学生の受け入れにすると良い。（自由な発想で町を活性化できる場所を提供）
- ・山北の中心地である駅前商店街が年々寂れていくのを見ているのは寂しい限りです。何年も前から活性化と唱えつつも現実には反比例しているのが現状だと思います。電車・バス等増発がなかなか難しいようですし、長い待ち時間を利用して、山北駅を公

園の中にある村にして、休憩できるベンチ、カフェ、等あったら憩える山北としてお年寄りにもやさしい待ちになるのではと思います。

- 全国的少子高齢化といわれ、昔のにぎわいが懐かしく思い出されます。4時ごろになると駅前には買い物客で大勢歩いていたものです。現在魚一さんもなくなり町内での買い物には本当に困っています。
- 食品・雑貨店の販売店が増えてくれると助かる。小田原百貨店・コメリ・クリエイトの大型店に物が集中しているから、車で行かざるを得ない。昔は商店街をはじめ、近隣に色々なお店があったので、徒歩、あるいは自転車ですぐに買いに行けたので良かった。山北駅前商店街はこれ以上お店がたたまれると本当に困る。